

# 台湾における大学院卒者の家族形成

## Family formation of postgraduate degrees holders in Taiwan

可部繁三郎（日本経済新聞社）

Shigesaburo Kabe (Nikkei Inc.)

[skabe0727@yahoo.co.jp](mailto:skabe0727@yahoo.co.jp)

台湾では高学歴化が進んでおり、18～21歳人口に占める高等教育機関の在籍者率は2001年度に男性39%、女性46%だったのが、10年後の2011年度には男性65%、女性73%へと急増した。2018年度は男性66%、女76%とさらに伸びている。大学進学率（大学の学部への進学者数を3年前の中学校卒業生数で割った値）を日本と比較してみると、2018年で日本が男性56%、女性50%なのに対し、台湾は男性68%、女性74%に達しており、日本よりも男女ともに4年制大学への進学熱が高い。

高い大学進学率を背景に、大学院への進学も多く、2018年度の修士課程在籍者数は4年制大学の学部在籍者の17%（2001年度は13%）、博士課程在籍者数は約2.9%（同2.4%）に達している。

こうした高学歴化は台湾における平均初婚年齢の上昇の一因と指摘される。2018年の平均初婚年齢は男性32.5歳、女性30.2歳で、男女とも結婚の後ずれが起きている。本報告は4年制大卒の場合と、それ以上の高い学歴を持つ大学院卒の場合で、結婚、あるいはその後の出生といった家族形成で何らかの違いがあるのかどうかに注目し、台湾で実施された2つの全国調査のデータを用いて、台湾における大学院卒の高学歴者の家族形成について考察する。

使用する1つ目の調査は、行政院（日本の内閣に相当）の主計総処が実施した「女性の結婚と育児・就業に関する調査」（調査対象は台湾全域の15歳以上の全配偶関係の女性）である。2006年、2010年、2013年の3カ年のデータをプールした上で、4年制大卒以上の女性15,222人に焦点を当て、大学院卒（1,411人）の高学歴の女性が結婚や出生などの家族形成において、学部卒の女性に比べて差異がみられるのかどうかを考察する。

2つ目の調査は政府系の国家実験研究院科技政策研究・情報センターの「博士求學動機・學位效益調査」が2018年に実施したもので、2001～2018年に博士課程を修了した博士号取得者を対象に行った（4,897人）。博士課程進学前と、博士号取得後の調査時点における婚姻状況に着目し、博士号取得者の結婚確率の規定要因を探る。また、男女別の分析も試みる。

謝辞：政府調査資料である「女性の結婚と育児・就業に関する調査（婦女婚育與就業調査）」の2006年、2010年、2013年版のマイクロデータおよび「博士求學動機與學位效益調査」の2018年版のマイクロデータの使用を許可して頂いた中央研究院（人社中心調査專題中心）に感謝する。